

巻頭言
「憧れ」をもつ

校長 檜尾 尚樹

「一生懸命やって勝つことが一番、二番目は一生懸命やって負けること」

これは『赤毛のアン』の日本語翻訳者である村岡花子の半生を描いたNHK連続ドラマ「花子とアン」中での言葉です。主人公が師範学校を受験する直前、不安な気持ちを友人に打ち明けた際、励まされ、背中を押してもらった言葉です。結果よりも全力を尽くすことの大切さを気付かせてもらい、覚悟を決めることが出来た場面だったため、強く心に残っています。

では、これからの長い人生に直結する高校時代の進路選択において、一番大切なことは何でしょう。それを問われれば多くの人は「具体的な目標をもつこと」が思い浮かぶのではないのでしょうか。私もこれまでの教員生活でそのように話してきました。そこでドラマの言葉を思い出し、二番目に大切なことは何だろうかと考えた時、はたと困ってしまいました。今まで一番しか考えたことがなかったためです。それでもやっと私がひねり出した答えは「憧れをもつこと」でした。「憧れ」は辞書に「理想的な存在とする人や職業に心が強く惹かれ、会ってみたい、近づきになりたいと切に望むこと」とあります。（三省堂新明解）それに対し、「目標」には「行動するに際し、そこまで到達しようとしたこと」（同）とあり、目指すところが明確です。「明確な目標を持つこと」が自分のやる気を引き出し、様々な誘惑に負けない大きな原動力となることは確かだと思います。しかし、私自身のこれまでの人生を振り返ったとき、最初から明確な目標があったかと問われれば自信がありません。

思い起こせば、人生で最初に描いた憧れは宇宙飛行士でした。小学生の頃、アメリカのアポロ計画についてのテレビや雑誌を見て、宇宙から見た地球は本当に青いのか確かめてみたいと思ったのです。しかしどうすればなれるかを調べたり、なるための努力をした記憶はありません。その後は、英語教師、考古学者、生命科学の研究者など様々な憧れの変遷がありましたが、高校時代になって、住んでみたい場所、魅力的なキャンパスがあることで大学を決めたことは覚えています。そして、そこで免疫学という未知の研究分野が沢山ある学問に魅力を感じ、生物学の道に進みました。現代のようにインターネットのような検索方法も無く、詳細な資料や情報もほとんど無い時代、「憧れ」だけが勉強するエネルギーとなり、現在の自分につながっているような気がしています。学生時代に生命科学に関して研究を続けるうちに、この地球上に偶然誕生した生命体の不思議さ・愛おしさ、そして命を維持している巧妙な仕組みを知ることのでられる感動を若者に伝えたいという目標が定まり、教師という道を選び今に至っています。

恐らく皆さんの中には「目標が見つからない」ということで、頑張るエネルギーがわいてこない人や、具体的な一步を踏み出せないでいる人もいます。選ぶべき選択肢が多すぎて、どれが自分に合っているのか選べないでいる人も多いのではないのでしょうか。今の世の中、様々な分野において選択肢が多すぎると言うことは、もしかしたら幸福なことではないかもしれません。そんな人には「憧れ」を大切にしているうちに、しなければならぬことや、した方が良くわかってくると思います。その中で文武両道を成し遂げる意味や、苦しい勉強に耐えられるような「具体的な目標」が見つかると思います。一見回り道のように思えたとしても、どんな経験も決して無駄になることはありません。

そんな風に考えると、進路選択における一番大切なことは、「憧れをもつこと」で、二番目に大切なことが「目標をもつこと」かもしれません。